

病院だより 17

健康チエック 頻尿について

美祢市立病院
泌尿器科部長
福永 康二



程度我慢したり、逆に軽い尿意であっても外出などに排尿を済ませておくことができます。

今回は、泌尿器科を受診される患者さんの中ではよくみられる症状「頻尿」についてお話します。両側の腎臓でつくられた尿が、膀胱内に一定量溜まると、膀胱壁が伸展し刺激されることによって末梢神経から脊髄排尿中枢を通じて大脳の中樞神経に伝えられ、人は尿意を感じるようになります。

そこで、人はトイレに行き、排尿を行います。正常な排尿は大脳の働きによって、尿を排出する膀胱の関係がうまく保たれコントロールされている状態です。そのために、排尿はある

膀胱の正常容量は、その人の体格にもよりますが、約200ml〜300ml程度です。日本人では、約150ml溜まると強い尿意を覚えるのが一般的です。排尿回数は、昼間は4〜5回、夜間は0〜2回、合わせて1日に7回ほどが成人の平均で、1日に約1500mlの尿を排尿していることとなります。

にでも当てはまることで、一時的に体内に急激に増えた水分を排出しようとする一時的、生理的な反応です。

しかし、このように水分を大量摂取しないにもかかわらず排尿回数が増える場合は、問題となる原因がないか、原因の精査と治療が必要になってきます。中にはさまざまな要因が複合して起こる場合もあるため、頻尿が続く場合や、繰り返す場合には、泌尿器科を受診し、精査を受けることをお勧めします。

大きく分けると、頻尿をきたす原因には次の2通りのケースがあります。

膀胱や尿道などの臓器に異常や病気が認められるケースと、病気や異常がないのに、心理的要因によって症状だけが出るケースです。

急性が高まる結果、排尿筋が収縮して頻繁に尿意を感じるようになります。

2つめは、膀胱容量が減り、1回の排尿量が減ってしまうケースです。膀胱内に腫瘍や結石ができて膀胱内部が狭くなったり、逆に膀胱周辺の臓器（子宮や卵巣、大腸など）の腫瘍によって膀胱が圧迫されることで膀胱容量が減ってしまい、頻尿をきたすものです。女性では妊娠中に子宮が膀胱を圧迫し、膀胱の容量が減る原因になることもあります。

3つめは、1日尿量が4〜10リッター近くにもなる尿崩症や糖尿病などの内分泌異常によって尿量自体が増え、その結果、排尿回数が多くなるケースです。尿量自体が増加すれば、当然1日の排尿回数も多くなるため、頻尿の症状も見られるわけですが、この場合、厳密には、頻尿ではなく、むしろ「多尿」（1日尿量が多い状態）と診断されます。1日の尿量の合計が普通で、少しずつ何回もトイレに行くことが頻尿の特徴だからです。診断に際しては頻尿と多尿の識別は重要になってきます。

4つめは、膀胱に溜まった尿を1回の排尿ですべて出し切れないため、何度もトイレに

行かなければならず頻尿となるケースです。男性での前立腺肥大症や前立腺癌などの前立腺の疾患に伴う頻尿のほとんどがこのケースです。また、排尿を調節している神経系が障害される病気によって排尿のシステムがうまく働かなくなると、同じようなことが起こります。これを「神経因性膀胱」といいます。脳脊髄腫瘍や脳梗塞などの脳血管系障害、パーキンソン病などの神経疾患の他、子宮や直腸の病気で手術治療や放射線療法を受けた人、長年にわたる糖尿病で膀胱の神経が麻痺している状態の人に起こることがあります。トイレに行っても、たらたらと少しづつしか尿が出ません。尿失禁などの排尿異常も見られます。

以上のように、頻尿をもたらす背景には、様々な病気があり、原因となっていることが多いわけですが、いずれもそれぞれの病気の治療に専念することで頻尿も改善します。気になる症状が続く場合には早期に泌尿器科専門医を受診し、よく検査することが必要です。

問合せ先 美祢市立病院
(☎ 0837 1700)

市議会定例会での、一般質問の質問要旨と答弁要旨を紹介します。
 また、本会議や各委員会の様子は、市有線テレビ（MYT）で放映しており、各総合支所では録画を見ることが出来ます。議事録も市議会事務局、美祢図書館、各総合支所、市ホームページでご覧になれます。



6月議会 一般質問

Q 質問要旨 & A 答弁要旨

問合せ先 市議会事務局 (☎0837⑤1117)

原田 茂議員



Q1 船窪山斎場の今後の運営について

船窪山斎場は、築後37年目となり、2基の火葬炉は、昭和63年にコンピュータ制御が導入され、2号炉は平成12年に更新していますが、1号炉は導入後、21年が経過しています。船窪山斎場の今後の運営についてお尋ねします。

また、火葬炉のコンピュータ制御機器の更新についてお尋ねします。

A 市長答弁

船窪山斎場の今後の運営については、地域の皆様の重要な問題であると認識しており、市民の皆様のご意見をお伺いしながら、経費、ランニングコスト等あらゆる角度から検討を重ねた上で結論を出してまいりたいと考えております。また、大規模な機械整備等の改修についても、早い時期に結論を出したいと考えております。

Q2 中学校の修学旅行について

新型インフルエンザの感染拡大に伴い、美東中学校では、5月下旬の関西方面への修学旅行を8月下旬に同方面に延期されることになり、延期に伴い交通機関で追加経費が発生することになりました。修学旅行の延期について、市内8校の状況及び県内中学校の状況についてお尋ねします。また、追加経費が必要となった場合、保護者の負担軽減のための助成についてお尋ねします。

A 教育長答弁

5月18日時点で3校は既に修学旅行を終えておりました。1校は、長崎・熊本方面のため計画通り実施し、残りの4校については、関西方面を5月後半に計画しておりましたので延期となりました。県内の中学校については、5月、6月の実施を予定していた学校が130校あり、そのうち112校が中止または延期を決めています。また、旅行の時期を変更したことで、学校によって多少の違いがありますが、1人当たり6,000円程度の追加

負担が必要となり、保護者の経済的な負担を軽減するために、国の補助等が活用できないか手立てを講じているところです。

南口彰夫議員



Q1 市立病院の救急医療体制について

通常業務の中で、通常の診療業務と併せて発生する緊急医療体制、昼夜間の救急医療体制についてお尋ねします。

また、新型インフルエンザの対応として市立病院と美東病院は独自の体制をとっていますが、保健医療となれば、県の窓口のどこに組み込まれるか非常に曖昧になっていきますので美祢市における市民のための保健医療体制についてお尋ねします。

A 市長答弁

緊急医療提供体制における本市の病院事業の役割としては、美東病院については、初期救急医療機関として比較的